

子育て支援

学童保育施設の待機児童の解消を

答弁: 改善を図りながら希望する方が全て利用できるように、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

松本 英子 議員
松本 学童保育の充実に向けた取組みをしていただいていることは承知しておりますが、子育て支援の一環として待機児童をなくすために、指導員不足の原因となつている処遇について、時給を引き上げ、処遇を改善することで、指導員の確保に力を尽くしていただきたいと思ひます。待機児童を解消するための考えをお伺ひします。

市長 平成29年度からは小学6年生まで受け入れることとしており、今回の補正予算による施設整備により、ハード面での環境整備はほぼ完了いたします。ご提案については、これは、時給の問題ではなく、働き方の問題というふうに向つております。学童保育室の指導員のみ引き上げられませんので、時給の問題は難しいと考えます。このため、指導員の方々の意見を伺ひながら、学童保育室の運営のあり方等の改善を図つていく必要があると考えます。学童保育の必要性はさらに高まつていくと考えており、希望する方が全て利用できるように全力で取り組んでまいりたいと考えております。

リサイクル事業

布団・布製品のリサイクルについて

答弁: 羽毛布団については資源化を図れるよう早急に対応してまいりたいと考えております。

池田 任美 議員
池田 布団・布製品の中でも羽毛は軽くて暖かく、適正なメンテナンスをすることで、100年以上は持つといわれています。将来にわたつて多くの方々に安定的に羽毛を供給するために羽毛を循環させる仕組みへの取り組みがはじまつています。回収された布団・布、特にダウンの取り扱い方法についてお伺ひします。

副市長 布団は、粗大ごみまたは燃やすごみに分類されています。粗大ごみとして搬入された布団は、汚れているものなどを除外し、クリーンセンター内で分別を行い資源化してまいります。また、布製品のうち衣類は、ダウンジャケットを含め透明袋へ入れて集積所に出していただき、再生事業者にそのまま売却し資源化をしております。現在、羽毛布団は、燃やすごみとして焼却しておりますが、今後、クリーンセンターにおいて、資源化が可能なダウン70%以上であることを品質表示で確認し、条件をクリアしたものについては布団の一部として資源化を図れるよう早急に対応してまいりたいと考えております。

リサイクル率の向上

リサイクル率向上と更なるごみの減量化に向けて

答弁: 地球温暖化の抑止や最終処分場の延命化などに対応するため、リサイクル率の向上を進めております。

野中 芳子 議員
野中 「日本一のリサイクルのまち」を目指し、市民や事業者と協働してごみの減量化や資源化を図ることで、循環型社会の構築、推進に取り組んでいきます。平成33年にリサイクル率40%に設定し、リサイクル率向上を目的とする理由と減量化に向けた取り組みについてお伺ひします。

環境安全部長 ごみの分別徹底による再資源化の促進を図ることで、地球温暖化の抑止や最終処分場の延命化などに対応するため、リサイクル率の向上を進めてまいります。また、燃やすごみに含まれる水分比率は、年4回実施している分析では、50%前後です。一般的に燃やすごみの約4割が生ごみで、生ごみの約8割が水分であることから、燃やすごみの減量化には生ごみの排出を少なくすることが有効です。平成24年度から27年度までに電気式生ごみ処理機とコンポスト容器、合わせて1293台に生ごみ処理容器購入費補助金の交付をしており、可能な限り処理後の生ごみを植木や家庭菜園などの肥料として利用するなど、生ごみの自家処理を促進し、ごみの減量化を図るため補助制度を周知してまいります。

受診率向上を

市民の健康を守る保健事業について

答弁: 市民の皆様の健康を守る、そういう市政を推進してまいります。

及川 和子 議員
及川 健診の受診率を向上し、健康に日常生活を送れるよう、特定健診の受診率が高い先進都市の事例を調査し、その教訓を本市の保健事業に生かしてほしいと思ひます。

市長 国保加入者の特定健診の実施率は残念ながら県内でも最下位という状況にあり、危機感を覚えており、このため、受診率の高い自治体の状況なども分析し、取り入れられるものは取り入れてまいります。また、個別通知も引き続き行い、一部有料のがん検診を無料で拡充する。さらに、受診機会を増やし、集団健診を身近なところで受診できるようにするなど市民の皆さんと協力し、地道に取り組んでいくことが大事です。市民の健康を守る保健事業について、病気になるようには、特定健診やがん検診が大変有効であると常々考えておりますので、この点を重視しながら、今後市民の皆様の健康を守る、そういう市政を推進してまいります。